

湿原を作る前の状態
(岡山市牟佐大久保)

「たんぼの話」3

山の中でビオトープ

「生まれ変わった山田跡」

岡山市 十川 巡一

私の山は番地は三つに分かれています。地続きで、山あり谷ありハチクの竹藪があり池もあり、おまけに、今は山林になっていますが、山田の跡地もある所なのです。よく祖父と行っていた山です。昔、祖父が炭焼をした跡もあります。

(昭和30年頃)山田のすぐ近くの松林に、毎年ジイタケ(アマタケ)を採りに行きました。この山の中で良く遊び思い出の多い土地なので、一番好きな場所です。息子と時々キノコ採りに行っていた場所もあります(息子とキノコ採りに行きだしたのは幼稚園の頃から)。山田だった場所は、私が大久保に帰って来た頃に、2~3年ほど作っただけですが、たんぼで稲刈りをしているところで私が笑っている風景が頭の中をよぎります。

原に移って2年目頃から(昭和40年)、キノコ狩りを始め時々山に来ていました。必ず山田の傍を通ります。最初はススキが繁り、やがてメダケが繁りうっそうとしてきました。平成8年頃には一番上の場所には大きなノグルミが2本と低めのアベマキやヤマウルシが、また二段目との間の石掛にはカシが5本、太いエノキが一本、石垣の中ほどからコナラが下の場所を覆うように生え、ヌルデも数本生えて、山田は元の林になりました。この山田は、谷から水を入れていました。昔は常に水が流れていましたが、今ではわずかしが流れていません。そのため雨が降ると多めに水が流れ「ホッ」とします。大雨になると凄い勢いで流れ、山の中に幻の谷(普段全然水が流れていないところ)まで現れる始末です。手入れする人もいなく、山の中は荒れ放題でした。

たんぼの北側には谷があり一番上のたんぼだった所はチョロチョロと水が流れ込み、竹が生えてないイノシシのヌタバがありました。そこで湿原にしようと思い、平成13年息子と二人で竹やノグルミの木を切りました。ふと見ると真ん中あたりからメダケの根を伝い二段目に水が流れているようなので、覗き込んでみると少し水が見え、メダケの生えてない所が有り、様子を見ようと下に降りてゴソゴソともぐり込みました。すると今まで二段しかないと思っていたのにもう一つ、間に小さな二段目があったのです。あまりにもメダケが繁っていた為、忘れていました。そこで私は「ここに小さな池を作ろう」と思い、日を改めて二人で切り開きました。ほとんど息子が切り、私は片づけをしただけです。三段目は切った竹や木を捨てる場所にしました。今でもメダケが繁りヌルデなどが生えたままです。池も殆ど息子が一人で掘り、小さな池も出来ました。山も早く木を切って間引き、広々とした林にしようと思っています。冬から春にかけての休みの日は、山の手入れに行きます。ひと月に1度は水の様子を見に行かないと、イノシシが谷を掘り水が入らなくなります。すぐに時間が過ぎてしまい、中々前に進みません。私は湿原と池も年に2~3回草を刈ります。

冬、水が少ない時、イノシシが池の周りを掘り返します。湿原と池はニホンアカガエルの産卵場所です(2月中旬~3月上旬に50個ぐらい産みます)。カスミサンショウウオも下の池に毎年産卵に来ます。

池の中にもホタルトビケラや他の生き物が住み着きました。

「何と云うことでしょうか。山田の跡地は小さな湿原と池に生まれ変わりました」



イノシシの掘り跡と、できあがった湿原



できあがった池と、池の中で増えたアサザ